

I. 住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

1. 住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

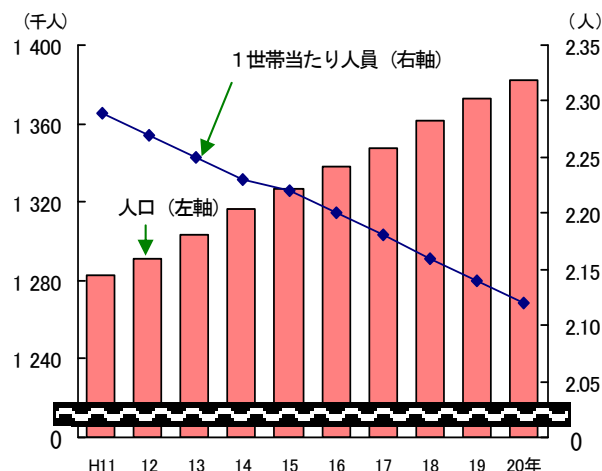
人口は1,382,563人、9,723人の増加
住民基本台帳に基づく平成20年9月末現在の福岡市の人口は1,382,563人で、前年（平成19年9月末現在）に比べ9,723人増加し、増加率は0.7%となっています。

世帯数は652,282世帯で、前年に比べ9,768世帯の増加、増加率1.5%となっており、人口の増加を上回っています。

性別に見ると、男性は656,798人で、前年比3,863人（増加率0.6%）の増加、女性は725,765人で、前年比5,860人（同0.8%）の増加となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は、年々下降を続け、前年より0.2ポイント下降し、90.5となっています。

1世帯当たり人員は2.12人で、前年比0.02人の減少となっています。人口、世帯数ともに、毎年増加を続けていますが、1世帯当たり人員は、減少が続いています。

図1 人口及び1世帯当たり人員の推移



(2) 行政区別人口

博多区が世帯数、人口とも大きく増加
行政区別に見ると、東区が人口、世帯数ともに最も多く、人口は272,728人、世帯数は122,998世帯となっています。人口、世帯数ともに最も少ないのは城南区で、人口121,213人、世帯数56,045世帯となっています。

前年に比べ、世帯数はすべての区で増加していますが、人口は5区で増加し、南区と城南区の2区においてわずかに減少しています。

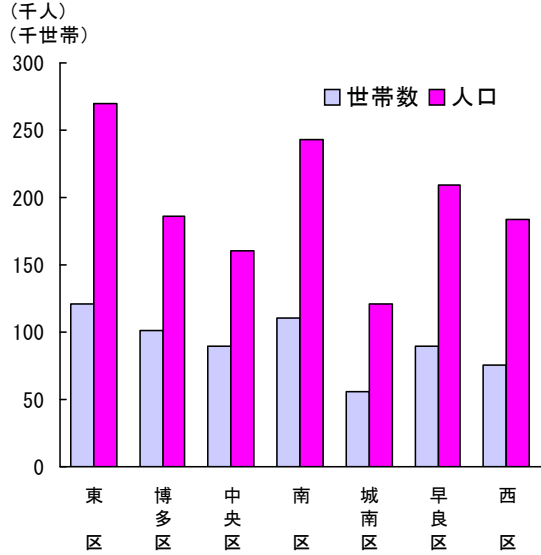
表1 世帯数及び人口等の推移

年	世帯数		人口	前年増加率	男	女	性比	1世帯当たり人員
	世帯	前年増加率						
		%		%	人	人		人
平成11年	560 143	1.6	1 282 580	0.7	616 690	665 890	92.6	2.29
12年	569 340	1.6	1 291 542	0.7	619 940	671 602	92.3	2.27
13年	579 166	1.7	1 303 253	0.9	624 601	678 652	92.0	2.25
14年	589 349	1.8	1 316 222	1.0	630 069	686 153	91.8	2.23
15年	598 954	1.6	1 327 099	0.8	634 863	692 236	91.7	2.22
16年	608 510	1.6	1 337 576	0.8	639 168	698 408	91.5	2.20
17年	618 034	1.6	1 347 823	0.8	642 842	704 981	91.2	2.18
18年	630 866	2.1	1 361 060	1.0	648 387	712 673	91.0	2.16
19年	642 514	1.8	1 372 840	0.9	652 935	719 905	90.7	2.14
平成20年	652 282	1.5	1 382 563	0.7	656 798	725 765	90.5	2.12

人口の増加が最も大きいのは博多区で、3,444人(対前年増加率1.8%)増加、ついで東区が3,119人(同1.2%)増加となっており、この2つの区で福岡市全体の増加分の67%を占めています。

1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.42人で、以下、早良区(2.32人)、東区(2.22人)と続き、都心部に位置する中央区(1.77人)と博多区(1.83人)は、福岡市全体(2.12人)を下回っています。

図2 行政区別世帯数と人口



人口密度は、中央区が10,690人/㎢と最も高く、早良区が2,182人/㎢と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

年少人口の構成比は変わらず
老年人口は増加

福岡市の平均年齢は男性が39.8歳、女性が42.7歳、全体としては41.3歳となり、前年に比べ0.3歳上昇しました。

年齢別の構成比を見ると、15歳未満の「年少人口」の構成比は14.0%で、3年連続同じ割合となっています。

しかし15～64歳の「生産年齢人口」は69.2%で、前年に比べ0.4ポイント減少し、また65歳以上の「老年人口」は16.8%と、前年に比べ0.4ポイント増加しており、引き続き高齢化が進んでいます。

行政区別に見ると、年少人口の割合が高いのは、西区、早良区及び東区で、老年人口の割合が高いのは、城南区、南区及び西区となっています。

都心部である博多区と中央区では、生産年齢人口の割合が高く、年少人口と老年人口の割合が低くなっています。

表2 行政区別世帯数及び人口

市・区	平成19年		平成20年												(各年9月末現在)		
	世帯数	人口	世帯数	増加率	人口	増加率	構成比	男	女	性比	1世帯当たり人員	面積	人口密度				
福岡市	642 514	1 372 840	652 282	1.5	1 382 563	0.7	100.0	656 798	725 765	90.5	2.12	341.11	4 053				
東区	120 790	269 609	122 998	1.8	272 728	1.2	19.7	132 727	140 001	94.8	2.22	67.77	4 024				
博多区	100 962	186 587	104 015	3.0	190 031	1.8	13.7	92 499	97 532	94.8	1.83	31.47	6 038				
中央区	89 961	160 428	91 420	1.6	162 067	1.0	11.7	71 521	90 546	79.0	1.77	15.16	10 690				
南区	110 309	242 533	110 905	0.5	242 327	△0.1	17.5	114 263	128 064	89.2	2.18	30.98	7 822				
城南区	55 870	121 330	56 045	0.3	121 213	△0.1	8.8	57 963	63 250	91.6	2.16	16.02	7 566				
早良区	89 461	208 901	90 345	1.0	209 179	0.1	15.1	99 390	109 789	90.5	2.32	95.88	2 182				
西区	75 161	183 452	76 554	1.9	185 018	0.9	13.4	88 435	96 583	91.6	2.42	83.83	2 207				

注) 面積は平成20年10月1日現在

表 3 年齢階級別人口及び平均年齢

(平成20年 9 月末現在)

年 齢 (5 歳階級)	福岡市			東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
	総 数	男	女							
総 数	1 382 563	656 798	725 765	272 728	190 031	162 067	242 327	121 213	209 179	185 018
0 ～ 4 歳	65 190	33 502	31 688	13 865	8 749	6 294	11 005	5 418	10 032	9 827
5 ～ 9	64 446	33 066	31 380	13 335	7 597	5 926	11 394	5 499	10 677	10 018
10 ～ 14	64 089	32 759	31 330	13 334	6 882	5 808	11 590	5 683	11 071	9 721
15 ～ 19	65 708	33 094	32 614	13 823	7 603	6 123	11 587	6 341	11 072	9 159
20 ～ 24	94 184	45 595	48 589	18 405	16 073	12 396	15 626	8 897	12 526	10 261
25 ～ 29	110 182	52 539	57 643	20 360	19 327	17 038	17 985	8 961	14 685	11 826
30 ～ 34	118 838	57 812	61 026	22 737	18 888	16 442	20 061	9 722	16 119	14 869
35 ～ 39	116 876	57 286	59 590	22 757	16 934	14 822	20 377	9 585	16 612	15 789
40 ～ 44	96 496	47 062	49 434	18 543	12 709	12 300	17 019	8 026	14 673	13 226
45 ～ 49	86 143	42 062	44 081	16 615	10 924	10 344	15 505	7 391	13 779	11 585
50 ～ 54	83 839	40 773	43 066	16 523	10 619	9 389	14 961	7 462	13 690	11 195
55 ～ 59	101 332	49 055	52 277	20 190	13 037	11 003	17 950	9 307	16 213	13 632
60 ～ 64	83 550	39 527	44 023	16 484	10 973	9 167	14 877	7 526	13 059	11 464
65 ～ 69	69 024	31 074	37 950	13 885	8 851	7 178	12 479	6 276	10 485	9 870
70 ～ 74	57 741	24 717	33 024	11 284	7 443	6 174	10 559	5 422	8 746	8 113
75 ～ 79	46 259	18 674	27 585	9 001	5 921	5 081	8 629	4 270	6 991	6 366
80 ～ 84	31 663	11 396	20 267	6 236	4 051	3 573	5 806	2 959	4 778	4 260
85 ～ 89	17 051	4 696	12 355	3 401	2 216	1 903	3 098	1 570	2 435	2 428
90 ～ 94	7 359	1 671	5 688	1 456	914	819	1 333	652	1 158	1 027
95 ～ 99	2 233	386	1 847	406	276	247	424	207	343	330
100歳以上	360	52	308	88	44	40	62	39	35	52
平均年齢	41. 3	39. 8	42. 7	41. 0	40. 7	41. 2	41. 8	41. 7	41. 3	41. 4
(区…男)				39. 6	39. 2	39. 8	40. 1	40. 0	39. 9	39. 9
(区…女)				42. 4	42. 0	42. 3	43. 2	43. 4	42. 6	42. 7

表 4 年齢別（3 区分）人口

(各年 9 月末現在)

年 齢 区 分	平成19年	平 成 20 年							
	福岡市	福岡市	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
年 少 人 口 (15歳未満)	192 029	193 725	40 534	23 228	18 028	33 989	16 600	31 780	29 566
構成比 (%)	14. 0	14. 0	14. 9	12. 2	11. 1	14. 0	13. 7	15. 2	16. 0
生産年齢人口 (15～64歳)	956 167	957 148	186 437	137 087	119 024	165 948	83 218	142 428	123 006
構成比 (%)	69. 6	69. 2	68. 4	72. 1	73. 4	68. 5	68. 7	68. 1	66. 5
老 年 人 口 (65歳以上)	224 644	231 690	45 757	29 716	25 015	42 390	21 395	34 971	32 446
構成比 (%)	16. 4	16. 8	16. 8	15. 6	15. 4	17. 5	17. 7	16. 7	17. 5

年齢構成指数を見ると、「年少人口指数（生産年齢人口100に対する年少人口の比率）」は20.2、「老年人口指数（生産年齢人口100に対する老年人口の比率）」は24.2となっています。この二つを合わせた、生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は44.4で、前年に比べ0.8ポイント上昇しています。また、生産年齢人口の影響を受けないため、高齢化を敏感に示す「老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合）」は119.6で、前年より2.6ポイント上昇しています。平成2年の48.0と比べると、年少人口の半分以下だった老

年人口が、平成20年には年少人口の約1.2倍ということになり、福岡市においても年々高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」（5歳階級）を見ると、第1次ベビーブーム世代（1947～49年生まれ）を含む50歳代後半と、第2次ベビーブーム世代（1971～74年生まれ）を含む30歳代の人口が多いことがわかります。行政区別に見ても、おおむね同じ傾向がありますが、年齢区分構成が異なっている中央区と西区を比べると、ピラミッドの形も異なっているのが分かります。

《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

図3 年齢別（3区分）人口（構成比）
（平成20年9月末現在）

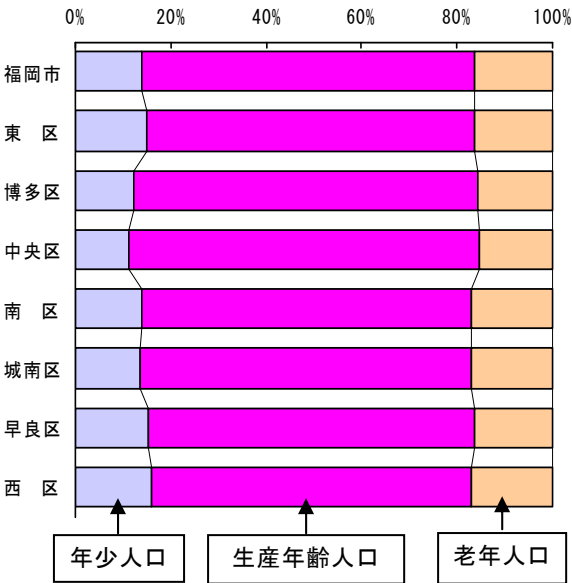


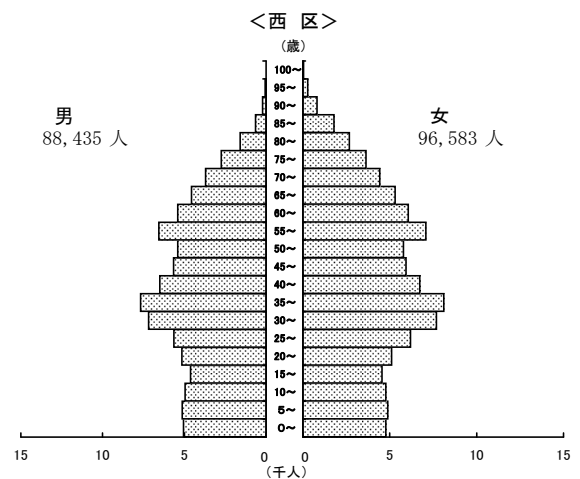
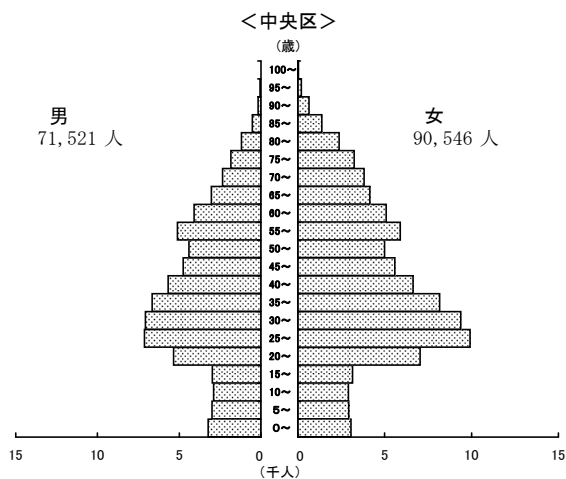
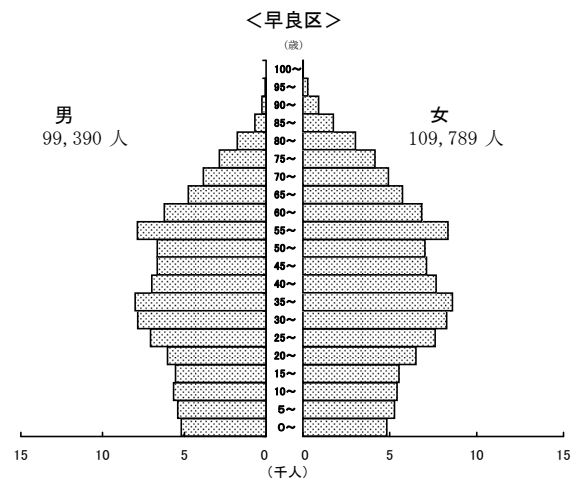
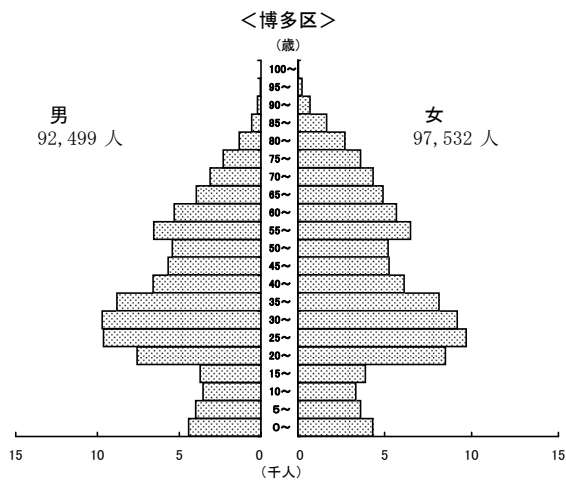
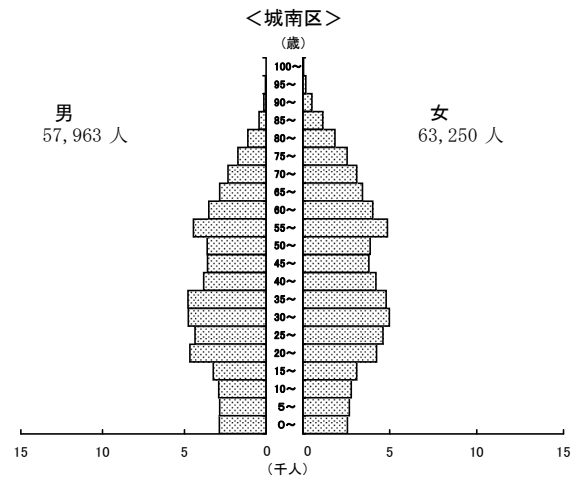
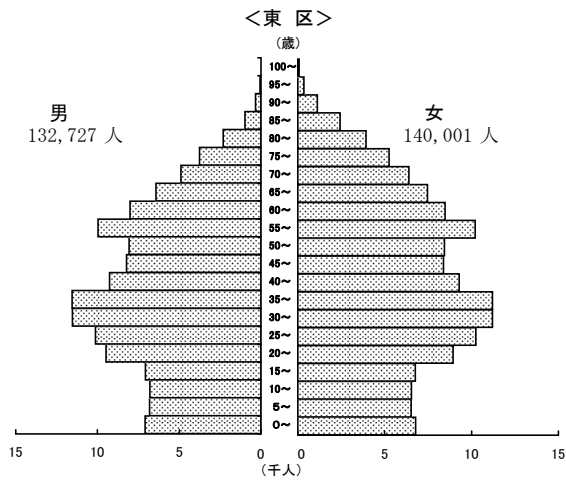
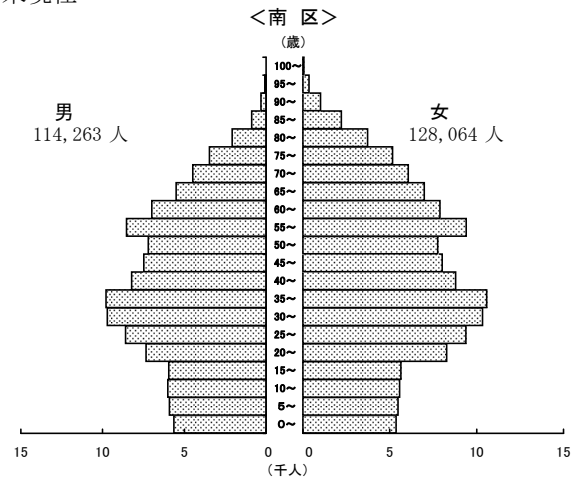
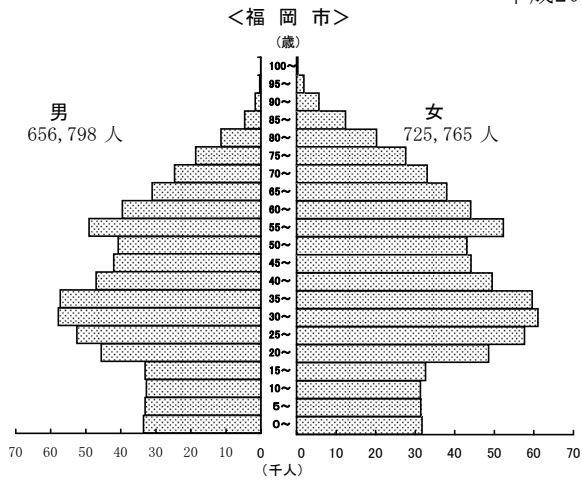
表5 平均年齢, 年齢（3区分）構成比, 及び年齢構成指数の推移

(各年9月末現在)

年	平均年齢 (歳)	構成比 (%)			年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
		年少人口	生産年齢人口	老年人口				
平成2年	35.3	19.2	71.5	9.2	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	16.5	72.3	11.2	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	14.8	71.8	13.4	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	14.1	70.5	15.4	19.9	21.8	41.8	109.6
18年	40.7	14.0	70.1	15.9	20.0	22.6	42.6	113.3
19年	41.0	14.0	69.6	16.4	20.1	23.5	43.6	117.0
20年	41.3	14.0	69.2	16.8	20.2	24.2	44.4	119.6

図4 人口ピラミッド（5歳階級）

平成20年9月末現在



(4) 小学校区別人口

人口増加数最多は照葉校区

小学校通学区域別に見ると、人口が多いのは、平尾校区(中央区)の20,562人で、以下、那珂校区(博多区)19,288人、博多校区(博多区)17,567人と続きます。

人口が最も少ないのは、曲淵校区(早良区)の203人で、次いで小呂校区(西区)211人、勝馬校区(東区)299人となっています。校区の境界に変動があった地域を除いて、人口増加数が一番多かった校区は、開校2年目を迎えた照葉小学校のある照葉校区(1,011人増)です。人口増加率も72.2%と最も大きくなっています。

性比を見ると、男性の比率が最も高いのは、筥松校区(東区)の110.8で、次

いで松島校区(東区)の108.7となっています。一方、女性の比率が最も高いのは、警固校区(中央区)の69.9で、上位5校区を中央区が占めています。

老年化指数は、大名校区(中央区)が415.1で最も高く、次いで志賀島校区(東区)の412.8、曲淵校区(早良区)の390.0となっており、市域の都心部と周縁部の校区が高くなっています。

年齢3区分別人口割合を見ると、年少人口割合が最も高いのは照葉校区(東区)の34.0%、老年人口割合が最も高いのは、曲淵校区(早良区)の38.4%となっています。生産年齢人口割合が最も高いのは、東住吉校区(博多区)の81.1%で、上位を占めているのは都心部に位置する校区です。

表6 校区別人口各種比較(上位5校区)

(平成20年9月末現在)

【人口総数】				【人口増加数】				【人口増加率】			
校 区 (行政区)	人口	男	女	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	人		人	人	%		人	人	%
平尾(中央)	20 562	8 772	11 790	姪 北(西)	9 711	2 716	38.8	照 葉(東)	2 412	1 011	72.2
那珂(博多)	19 288	9 668	9 620	照 葉(東)	2 412	1 011	72.2	姪 北(西)	9 711	2 716	38.8
博多(博多)	17 567	8 207	9 360	千 早(東)	7 204	730	11.3	千 早(東)	7 204	730	11.3
香住丘(東)	16 518	8 210	8 308	元 岡(西)	10 519	599	6.0	元 岡(西)	10 519	599	6.0
松 島(東)	16 034	8 350	7 684	三筑(博多)	11 887	599	5.3	千代(博多)	8 793	491	5.9

【性比－男性が多い】				【性比－女性が多い】				【老年化指数】			
校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	男	女	性 比	校 区 (行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人			人	人			人	人	
筥 松(東)	6 374	5 754	110.8	警固(中央)	6 332	9 057	69.9	大名(中央)	909	219	415.1
松 島(東)	8 350	7 684	108.7	高宮(中央)	4 613	6 323	73.0	志賀島(東)	615	149	412.8
片江(城南)	6 067	5 767	105.2	赤坂(中央)	4 416	6 036	73.2	曲淵(早良)	78	20	390.0
香椎下原(東)	6 553	6 290	104.2	大名(中央)	1 858	2 534	73.3	能 古(西)	265	72	368.1
東光(博多)	3 744	3 635	103.0	平尾(中央)	8 772	11 790	74.4	千代(博多)	2 108	595	354.3

【年少人口割合】				【生産年齢人口割合】				【老年人口割合】			
校 区 (行政区)	人口	年少人口	年少人口割合	校 区 (行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合	校 区 (行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%		人	人	%		人	人	%
照 葉(東)	2 412	820	34.0	東住吉(博多)	7 300	5 920	81.1	曲淵(早良)	203	78	38.4
金 武(西)	4 659	999	21.4	高宮(中央)	10 936	8 697	79.5	能 古(西)	760	265	34.9
下山門(西)	9 134	1 858	20.3	箕子(中央)	7 956	6 261	78.7	志賀島(東)	1 847	615	33.3
原北(早良)	7 718	1 547	20.0	春吉(中央)	10 894	8 541	78.4	城 浜(東)	4 117	1 330	32.3
三 苦(東)	8 880	1 761	19.8	堅粕(博多)	8 898	6 975	78.4	今 津(西)	3 195	1 025	32.1

2. 人口動態（平成20年1～12月）

(1) 自然動態

出生数の伸びが続くも、増加率は減少

平成20年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数13,977人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）10.11‰（パーミル）、死亡数9,654人、死亡率（同死亡数）6.98‰で、自然増加数は両者の差4,323人、自然増加率（同自然増加数）は3.13‰となっています。

表7 自然動態の推移

年	自然増加数 人	出生数 人	死亡数 人	自然増加率 ‰
平成11年	4 938	13 000	8 062	3.85
12年	5 186	13 158	7 972	4.02
13年	5 366	13 243	7 877	4.12
14年	4 959	13 135	8 176	3.77
15年	4 706	13 024	8 318	3.55
16年	4 468	12 978	8 510	3.34
17年	3 780	12 542	8 762	2.80
18年	4 340	13 255	8 915	3.19
19年	4 817	13 921	9 104	3.51
平成20年	4 323	13 977	9 654	3.13

平成19年（1～12月）と比較すると、出生数は昨年より56人増加（前年比0.4％増）し、3年連続で増加しています。しかし、死亡数の増加が550人（同6.0％増）と出生数の伸びより大きく、その結果自然増加数は平成19年の4,817人に比べ、494人減少しました。

行政区別に見ると、東区は出生数（3,005人）、死亡数（1,906人）ともに最も多く、また、自然増加数（1,099人）も最も多くなっています。

前年と比較すると、出生数が増加したのは、東区、博多区、中央区、南区の4区で、城南区、早良区、西区の3区は減少しています。

一方、死亡数は全ての区で増加しており、自然増加数が前年を上回ったのは東区だけです。

高齢化社会を迎えた現在、死亡数は今後も増加が続くと考えられ、出生数の動向が自然動態を左右します。

表8 自然動態

市・区	平成19年			平成20年					
	自 然 増加数	出生数	死亡数	自 然 増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	4 817 (3.51)	13 921 (10.14)	9 104 (6.63)	4 323 (3.13)	△ 10.3	13 977 (10.11)	0.4	9 654 (6.98)	6.0
東 区	954 (3.54)	2 773 (10.29)	1 819 (6.75)	1 099 (4.03)	15.2	3 005 (11.02)	8.4	1 906 (6.99)	4.8
博多区	753 (4.04)	2 027 (10.86)	1 274 (6.83)	682 (3.59)	△ 9.4	2 077 (10.93)	2.5	1 395 (7.34)	9.5
中央区	505 (3.15)	1 469 (9.16)	964 (6.01)	436 (2.69)	△ 13.7	1 477 (9.11)	0.5	1 041 (6.42)	8.0
南 区	721 (2.97)	2 392 (9.86)	1 671 (6.89)	683 (2.82)	△ 5.3	2 401 (9.91)	0.4	1 718 (7.09)	2.8
城南区	428 (3.53)	1 204 (9.92)	776 (6.40)	289 (2.38)	△ 32.5	1 098 (9.06)	△ 8.8	809 (6.67)	4.3
早良区	726 (3.48)	2 077 (9.94)	1 351 (6.47)	588 (2.81)	△ 19.0	2 019 (9.65)	△ 2.8	1 431 (6.84)	5.9
西 区	730 (3.98)	1 979 (10.79)	1 249 (6.81)	546 (2.95)	△ 25.2	1 900 (10.27)	△ 4.0	1 354 (7.32)	8.4

注）（ ）内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

5,047人の転入超過

平成20年の社会動態（市外との転出入の数）を見ると、転入者数は74,425人、転入率（人口1,000人当たりの転入者数）は53.83%となっています。

一方、転出者数は69,378人、転出率（同転出者数）は50.18%で、社会増加数は両者の差5,047人、社会増加率（同社会増加数）は3.65%となっています。

平成19年と比較すると、転入者数は2,852人減少、転出者数は1,985人減少し、社会増加数は867人減少したものの、社会増（転入者数が転出者数を上回る）の状態が平成8年以降続いています。

行政区別に見ると、転入者数が最も多いのは博多区（15,400人）で、社会増加数も2,545人と最も多くなっています。

南区のみ、転出者数が転入者数を上回り、社会動態では591人の減少となっています。

転入率、転出率を見ると、博多区と中央区の数値が高く、都心部の住民の移動が活発であることを示しています。

自然増加数と社会増加数を比べると、博多区、中央区など都心部では社会増加数が多く、他の5区では自然増加数が多くなっていますが、福岡市全体では社会増加数が自然増加数を上回っています。

図5 人口動態の構成

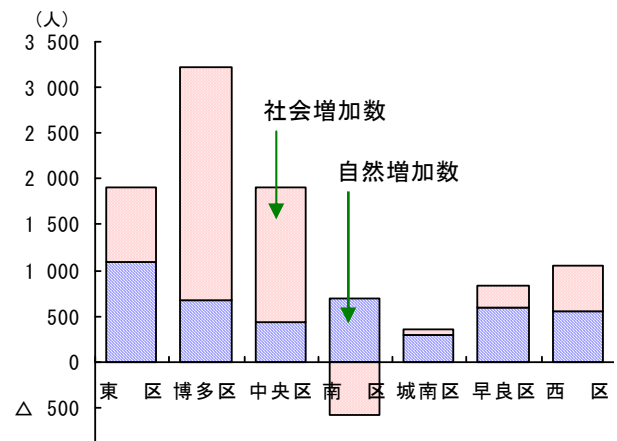


表9 社会動態（市外移動）

市・区	平成19年			平成20年					
	社会増加数	転入者数	転出者数	社会増加数	増加率	転入者数	増加率	転出者数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	5 914 (4.31)	77 277 (56.29)	71 363 (51.98)	5 047 (3.65)	△14.7	74 425 (53.83)	△3.7	69 378 (50.18)	△2.8
東区	1 777 (6.59)	14 964 (52.91)	13 187 (49.72)	818 (3.00)	△54.0	13 875 (50.87)	△7.3	13 057 (47.88)	△1.0
博多区	2 341 (12.55)	14 989 (81.16)	12 648 (67.27)	2 545 (13.39)	8.7	15 400 (81.04)	2.7	12 855 (67.65)	1.6
中央区	1 490 (9.29)	12 561 (84.11)	11 071 (66.40)	1 470 (9.07)	△1.3	12 122 (74.80)	△3.5	10 652 (65.73)	△3.8
南区	△ 496 (△2.05)	11 376 (50.20)	11 872 (49.41)	△591 (△2.44)	19.2	10 868 (44.85)	△4.5	11 459 (47.29)	△3.5
城南区	420 (3.46)	5 853 (46.82)	5 433 (46.38)	61 (0.50)	△85.5	5 299 (43.72)	△9.5	5 238 (43.21)	△3.6
早良区	269 (1.29)	9 496 (46.67)	9 227 (44.24)	243 (1.16)	△9.7	8 982 (42.94)	△5.4	8 739 (41.78)	△5.3
西区	113 (0.62)	8 038 (45.93)	7 925 (42.12)	501 (2.71)	343.4	7 879 (42.59)	△2.0	7 378 (39.88)	△6.9

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。

3. 人口移動状況（平成20年1～12月）

(1) 福岡都市圏との人口移動

前年比3割増、756人の転出超過

福岡都市圏との人口移動状況は、転入者は13,410人（対前年増加率△2.4%）、転出者は14,166人（同△0.9%）で、756人の転出超過となっており、平成19年に比べ転出超過数が34%増加しています。

地域別に見ると、筑紫地域との移動が最も多く、粕屋地域がこれに続きます。

転入・転出者数の差し引きを見ますと、宗像地域、糸島地域から転入超過、筑紫地域、粕屋地域へ転出超過となっており、特に粕屋地域へは834人と、前年の約4倍の転出超過数となっています。

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方が最多

全国地方別に人口移動状況を見ると、九州・沖縄地方との転出入が最も多く、

表10 福岡都市圏との人口移動状況

地 域	転入者数				転出者数				転入超過数 （△は転出超過数）	
	平成19年	平成20年	構成比	増加率	平成19年	平成20年	構成比	増加率	平成19年	平成20年
	人	人			人	人			人	人
総 数	13 736	13 410	100.0	△ 2.4	14 300	14 166	100.0	△ 0.9	△ 564	△ 756
筑 紫 地 域	6 259	6 154	45.9	△ 1.7	6 505	6 192	43.7	△ 4.8	△ 246	△ 38
粕 屋 地 域	4 400	4 206	31.4	△ 4.4	4 610	5 040	35.6	9.3	△ 210	△ 834
宗 像 地 域	1 406	1 299	9.7	△ 7.6	1 262	1 200	8.5	△ 4.9	144	99
糸 島 地 域	1 671	1 751	13.1	4.8	1 923	1 734	12.2	△ 9.8	△ 252	17

注) 筑紫地域…筑紫野市, 春日市, 大野城市, 太宰府市, 那珂川町 粕屋地域…古賀市, 宇美町, 篠栗町, 志免町, 須恵町, 新宮町, 久山町, 粕屋町 宗像地域…宗像市, 福津市 糸島地域…前原市, 二丈町, 志摩町

表11 地 方 別 転 入 ・

地 方	平 成 18 年			平 成 19 年			転	
	転入	転出	転入超過数 （△は転出超過）	転入	転出	転入超過数 （△は転出超過）	総数	
							総数	増加率(%)
総 数	78 190	70 537	7 653	77 277	71 363	5 914	74 425	△ 3.7
北 海 道	560	442	118	554	475	79	465	△ 16.1
東 北	573	551	22	643	557	86	571	△ 11.2
関 東	11 102	13 881	△ 2 779	10 761	14 796	△ 4 035	10 692	△ 0.6
北陸甲信越	619	639	△ 20	609	584	25	537	△ 11.8
東 海	2 106	2 698	△ 592	2 132	2 783	△ 651	2 250	5.5
近 畿	5 566	5 481	85	5 270	5 867	△ 597	5 288	0.3
中 国	4 933	3 797	1 136	4 726	3 647	1 079	4 442	△ 6.0
四 国	1 010	887	123	1 131	844	287	1 014	△ 10.3
九州・沖縄	50 511	40 900	9 611	50 308	40 525	9 783	48 003	△ 4.6
国 外	1 204	1 261	△ 57	1 139	1 283	△ 144	1 159	1.8
住 所 不 明	6	—	6	4	2	2	4	—

注1) 東北地方…青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県 関東地方…茨城県, 福井県, 山梨県, 長野県 東海地方…岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県 近畿地方…京都府, 山口県 四国地方…徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県 九州・沖縄地方…福岡県
2) 都道府県別の転入・転出者数, 福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97, 98ページに掲載

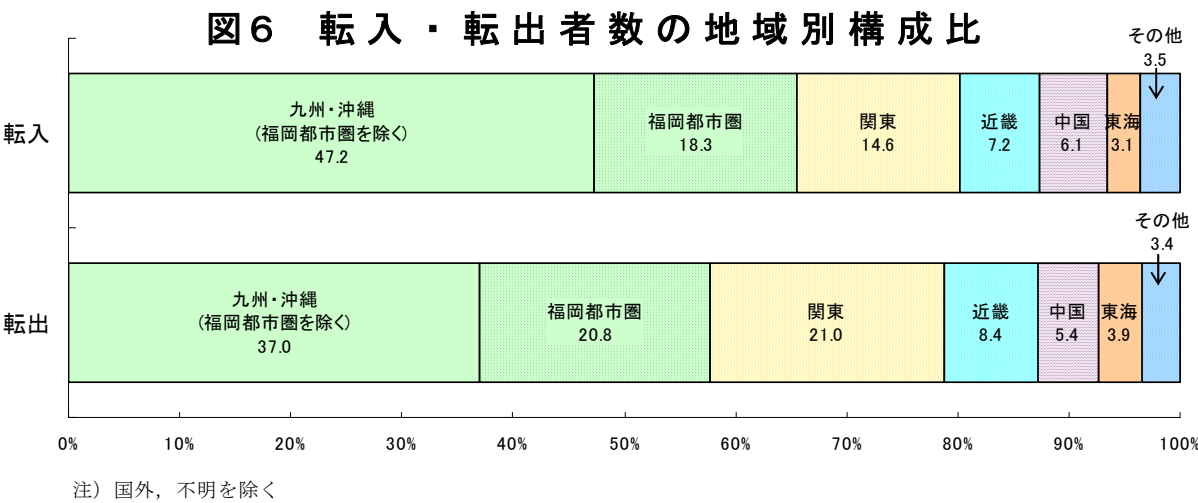
転入者数は48,003人（対前年増加率△4.6%）、転出者は39,327人（同△3.0%）で、8,676人の転入超過となっています。この転入超過数のうち、女性のが5,220人と、男性（3,456人）の1.5倍になっており、九州・沖縄地方から女性が多く転入しています。

次に転出入が多い地方は、関東地方で転入者数は10,692人、転出者数は14,327人でこちらは3,635人の転出超過となっ

ています。

関東、近畿、東海地方に加え、平成20年は北海道、北陸甲信越地方に対しても転出超過となっています。

地域別構成比を見ますと、転入・転出者数ともに約8割が、九州・沖縄地方または関東地方の移動となっており、福岡市の人口移動の特徴として、九州・沖縄地方からは流入し、福岡都市圏と関東地方へ流出しているということが言えます。



転出者数

(単位：人)								
平成20年								
入		転出				転入超過数 (△は転出超過数)		
男	女	総数	増加率(%)	男	女	総数	男	女
39 214	35 211	69 378	△ 2.8	37 685	31 693	5 047	1 529	3 518
278	187	475	—	281	194	△ 10	△ 3	△ 7
322	249	479	△ 14.0	277	202	92	45	47
6 277	4 415	14 327	△ 3.2	8 029	6 298	△ 3 635	△ 1 752	△ 1 883
319	218	538	△ 7.9	318	220	△ 1	1	△ 2
1 337	913	2 685	△ 3.5	1 698	987	△ 435	△ 361	△ 74
3 098	2 190	5 749	△ 2.0	3 329	2 420	△ 461	△ 231	△ 230
2 415	2 027	3 685	1.0	2 085	1 600	757	330	427
584	430	814	△ 3.6	480	334	200	104	96
24 103	23 900	39 327	△ 3.0	20 647	18 680	8 676	3 456	5 220
479	680	1 298	1.2	541	757	△ 139	△ 62	△ 77
2	2	1	△ 50.0	—	1	3	2	1

栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方……新潟県、富山県、石川県、
…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方……鳥取県、島根県、岡山県、広島
県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県